

平成 23 年 6 月 15 日現在

機関番号：24301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520127

研究課題名（和文）中央・西アジア音楽文化の比較研究—ウイグルの〈ムカーム〉を中心に

研究課題名（英文）A Comparative Study on the Central and West Asian Music Cultures:
Focused on the *Mukam* of the Uighurs

研究代表者 龍村 あや子 (TATSUMURA AYAKO)

京都市立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：40207064

研究成果の概要（和文）：中央・西アジア地域のトルコ、イラン、アラブ系民族の間には、「マカーム」「ダストガー」などと呼ばれる旋法・演奏体系を持つ古典伝統音楽が広く存在する。この研究は中国新疆のトルコ系民族であるウイグルの「ムカーム」と呼ばれる音楽を中心にそれらの伝統を比較し、特に東西交流の要衝の地に栄えたウイグル音楽の独自性と他の文化との関連を明らかにしようとするものである。詳細については、別添論文集の龍村の論文を参照のこと。

研究成果の概要（英文）：Among the Turkish, Persian and Arabic peoples in Central and West Asian countries, we find widely the similar music traditions which have the modal system and the performance practice called “Maqam”, “Mukam” or “Dastgah”. This study is a comparative study among those music cultures, focused on the music tradition of the Uighurs, a Turkish people who are living in the Xingjian autonomous region in China. The aim of this study is to clarify the peculiarities and the commonality of the these traditions, especially on the Uighur music tradition which locates in the middle of the ‘Silk Road’

For further information: Please see the article of TATSUMURA, attached at the end of this report.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	500,000	150,000	650,000
21 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
22 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：

科研費の分科・細目：芸術学 / 芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：ウイグル、中央・西アジア、音楽、イスラーム、中国、イラン、トルコ、アラブ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はイラン、トルコ、中国のシルクロード方面の文化と音楽には昔から興味を持ち研究を行ってきたが、この研究は、筆者のもとで博士号を取ったウイグルの作曲家、ウメル、ママト氏（研究協力者、ウイグル

語ではウメルが姓）の影響が大きい。ウメル氏を通じてウイグル音楽の素晴らしさ（世界無形文遺産）に接した筆者は、現在の中国の中で独自の言語も主張しがたいウイグル民族が、ほとんど唯一、自民族のアイデンティティを主張しうるその音楽伝統について、特に西

アジア系音楽との関連性を重視した形で研究を行いたいと思い、西アジア関係の研究者と共にこの研究を始めた。

2. 研究の目的

(1) ウイグルの「ムカーム」、イランの「ダストガー」、トルコの「マカーム」、アラブの「マカーム」の演奏の実態、楽器のありようを明らかにし、それらを比較することにより各文化の独自性と地域による差異をできる限り明らかにすること。

(2) (1)の研究の結果、ウイグル音楽文化の独自性と西アジア系文化との関連性を明らかにすること。

(3) 研究成果を広く公開し、ウイグルはもとより、一般にあまり知られていない西アジア系イスラーム文化地域の優れた音楽の伝統を世の中に知ってもらうこと。

3. 研究の方法

フィールドワークとその結果に基づく研究会による。研究グループには、トルコ、イラン、アラブの音楽研究者が参加しているので、ウイグル音楽文化の研究のみならず、それぞれの研究成果の総合が重要である。

4. 研究成果 *別添論文集も参照のこと

(1)平成 20 年度

・研究代表者はすでにウイグルには基本的なフィールドワークを行っていたので、隣国のトルコ系民族でウイグルの「12 ムカーム」と呼ばれる伝統と似た「6 ムカーム」という伝統を持つウズベキスタンと、西アラブ音楽文化圏の中心であるエジプトの基本的な文化に対するフィールドワークを行った。ウメル氏は 12 ムカームのいくつかの採譜を行った。研究代表者の龍村と連携研究者の小柴、谷は合同研究会を行った。

(2)平成 21 年度

①龍村と小柴はカザフスタンのアルマトイの音楽学院(コンセルヴァトワール)で行われた国際会議「中央アジア民族の伝統音楽文化」に出席。龍村は「東・中央アジアにおける古典的叙情詩の自由リズムによる独唱様式について」という題名で研究発表を行い、好評を得た。このテーマも当該地域の比較研究の一つである。この音楽祭で、多様な中央アジアの民族音楽の収録を行った。また小柴は夏にウズベキスタンで行われた国際音楽祭で同じく多くの民族音楽を収録した。

②今回の研究期間で大きな誤算があったのは、この年に起こった新疆ウイグル自治区の政治的騒乱である。多くのウイグル民族が逮捕され、情報が遮断され、電話も通じなくなったために、インフォーマントのウメル氏と

は全く連絡をとれない状況となり、夏に予定していた研究グループ全員でのウイグル音楽調査は断念せざるを得なくなった。しかしその代りに龍村、小柴、谷、屋山の全員でイスタンブールでのトルコ音楽調査を行った。屋山の紹介のウード奏者、打楽器奏者などによる貴重な音楽資料の収録が得られた。またウード(アラブ、トルコの重要楽器だがウイグルでは現在使われていない撥弦楽器)の楽器工房も調査。トルコの軍楽隊の収録。またギリシャ正教のミサを収録。

③龍村の企画で小柴と谷は比較文明学会と民族芸術学会の合同大会で発表。龍村は比較文明学会大会で西洋の音楽に対するアジアやアフリカの音楽の「無形文化遺産」としての意義についての研究発表を行った。

(3)平成 22 年度 (最終年度)

①龍村、小柴、谷、屋山は京都で研究会を行い、主として研究成果報告書用の論文(別添論文参照のこと)について話し合った。

②龍村は「芸術から文明を考える」というテーマで行われた比較文明学会大会において実行委員長としてかわり、「中央・西アジア・イスラーム文化圏に見る〈愛〉の表現—音楽と信仰」というタイトルで研究発表を行った。

③北アフリカ、中東のアラブ地域の政治的混乱を避けて、龍村は、渡航注意情報の出していないオマーンとアラブ首長国連邦のアブダビ、ドバイ、シャルジャのフィールドワークを行った。これらの国はイスラームの文明が世界に理解されることを目指して多大な努力を図っている。なかでも今回訪問したアブダビのグランド・モスクは、世界中からの現代美術工芸の粋を集めた素晴らしくゴージャスなモスクで、解説者もイスラームを理解してもらうことに熱心で丁寧な解説を行っていた。またシャルジャのイスラーム文明博物館も、現代的設備と工夫を凝らした、子供から大人まで楽しめる施設で非常に感銘を受けた。これらは学問の領域を超えて、一般の人々に訪れてもらいたい施設である。

これらの研究は科学研究費の交付が内定している 23 年度からの研究「中央・西アジア音楽文化の比較研究 2」につなげたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

(1) 小柴 はるみ (連携研究者)

『サライ・アルバム (宮廷詩画帳)』に描か

れた音楽・舞踊(5)『東海大学教養学部紀要』、査読有、第40輯、2010、201-240。(共著・松本奈保美)

(2) 谷 正人 (連携研究者)

「『個性』はいかに研究可能か(記述可能か)?—イラン音楽を事例とした一試論」堀内正樹,水野信男,西尾哲夫編著『アラブ音文化 グローバル・コミュニケーションへのいざない』スタイルノート2010、216-229

(3) 谷 正人 (連携研究者)

『楽譜』をどう捉えるか——民族音楽学の観点およびイラン音楽の事例から : 特集<読譜>にどう向き合うか——義務教育課程9年間を見通す中で『音楽教育実践ジャーナル』、査読有、vol.7 no.1、2009、16-24

(4) 龍村 あや子 (研究代表者)

「中央・西アジア音楽文化の比較研究に向けて—ウイグルの伝統を中心に」『民族芸術』(民族芸術学会機関誌)、査読有、vol.15、2009、164-176

(5) 屋山 久美子 (研究協力者)

「ה באוניברסיטה העברית ומכון בן-בצבי לחקר קהילות ישראל」256-245 עמ' 256-245 במזרח, ארץ-אלרפוס系ユダヤ人の『シラート・ハバカシヨート』における諸音楽様式の出会(ヘブライ語)『アレppo - 都市ユダヤ人コミュニティ』(ヘブライ大学シリア・アレppoユダヤ学研究所・ベン・ツビ東洋ユダヤ学研究所、2008、査読有、245-256

[学会発表] (計5件)

(6) 龍村 あや子 (研究代表者)

「中央・西アジア・イスラム文化圏に見る<愛>の表現—音楽と信仰」比較文明学会大会第28回大会、2010年11月28日、池坊短期大学

(7) 谷 正人 (連携研究者)

“The concept of improvisation in Iranian traditional music: the performer’s mental state and memory when confronting the improvisational model”, The Annual Conference of the British Forum for Ethnomusicology, Oxford, St. John’s College, Auditorium, 2010年4月9日

(8) 龍村 あや子 (研究代表者)

「非西洋文明における無形文化遺産の重要性」比較文明学会第27回大会2009年11月28日29日、立教大学

(9) 小柴 はるみ (連携研究者)

『トルコ音楽の撥弦楽器ウードとサズ』日本トルコ交流協会 第4回講演会2009年11月21日、東京大学東洋文化研究所

(10) 龍村 あや子 (研究代表者)

“On a Free-rhythm Solo-singing Style of the Classical Lyrics in East, Central and West Asian Music”, International Conference: Traditional Music Culture of the Central Asian People, 2009年5月5日, Almaty, Kazakhstan

[図書] (計3件)

(11) 龍村 あや子 (研究代表者)

『芸術から文明を考える』(監修) 比較文明学会大会要旨集比較文明学会編2010 全25頁、比較文明学会大会実行委員会

(12) 龍村 あや子 (研究代表者)

(分担執筆) “On a Free-rhythm Solo-singing Style of the Classical Lyrics in East, Central and West Asian Music”, International Conference: Traditional Music Culture of the Central Asian People, Traditional Musical Culture of the Central Asian People, Proceedings of the International Congress, Conservatory Almaty, 2009, (p.62)

(13) 龍村 あや子 (研究代表者)

『地球時代の文明学』(分担執筆) 143-168 「地球文明時代の芸術—音楽と<自然>と信仰の問題を考える」 比較文明学会関西支部編 2008 京都通信社、全221頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

龍村 あや子 (TATSUMURA AYAKO)
京都市立芸術大学音楽学部・教授
研究者番号: 40207064

(2) 連携研究者

小柴 はるみ (KOSHIBA HARUMI)
東海大学教養学部芸術学科・名誉教授
研究者番号: (申請時には次の番号だった: 50056040 しかし東海大学が名誉教授には番号を与えなくなったので現在は番号がない。)

谷 正人 (TANI MASATO)
(神戸学院大学人文学部人文学科・講師)
研究者番号：20449622

*別添で論文集をつけます。